

三鷹市立大沢台小学校 令和5年度【図画工作】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の時間を十分に設けることで、友達の商品の良さを発見し、互いに認め合い、次時の学習の意欲に繋げることができた。 学習用タブレット端末で、描きたいものを調べたり、自画像を描くときに写真を撮ったりして、より詳細に描こうとする視点をもつことができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形活動には意欲的だが、発想が固定しがちで、見方や感じ方が広がらない児童が見られる。形や色から考えたり、材料や用具に触れたりしながら、発想を豊かにする取り組みが必要である。 	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 手や体全体の感覚などを働かせ制作活動に取り組んでいるが、材料や用具の扱い方については個人差があり、一つひとつのものの使い方を指導する必要がある。 鑑賞では、造形活動で友達の造った形をまねてみたり、よいところを伝え合ったりすることができる。学習用タブレット端末を活用して、作品を記録することができる。 造形活動に関心が高く、意欲的に取り組むことができる児童と、手本を見ながら教師と一緒に取り組む児童との実態差がある。 	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れさせる時間を確保できていない。 決められたテーマを挙げての活動のみしかできず、本を見たりや体験活動をしたりする時間がつれていない。 作品を鑑賞する視点を明確に提示できていない。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> クレヨンや絵の具の使用方を提示したり、用具を使用する時間を多く確保できるような計画を立てるようにする。 造形活動に取り組ませるときには、発想が豊かになるように様々な体験を通して取り組めるようにする。 作品のできばえや取組を具体的に友達に伝えられるように、ICT機器などを使って、事前に鑑賞の視点を提示し、鑑賞の時間を十分に設けるようにする。
第2学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレットで用具の使い方や作品の手順を示すことでスムーズに用具を使えるようになってきた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞時の感想が、抽象的な表現になってしまう児童がいる。見る視点と合わせて表現の方法を伝えておく必要がある。 	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> はさみやのり、絵の具などの用具の扱いは、まだ不十分であるが、表し方を工夫して作ろうとする児童もいる。 色や形から発想したり、表し方などについて考え構想したりしようとする児童とそうでない児童との差がある。 	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な材料や用具に十分に慣れさせる必要がある。 思い出や経験、空想からなど表したいことを見付け豊かな発想をさせる必要がある。 楽しく鑑賞に取り組んでいるが、形や色についての視点を明確に提示できていないことがある。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の扱い方では学習用タブレット端末やICT機器等を活用し、動画や写真で分かりやすくして、常に確認できるようにしたり、個々の技能に応じた指導をしたりする。 様々な材料や表現を体験させ、物との関わりから自分の思いを広げられるようにしていく。 鑑賞では、互いの作品を見る際の視点やルール、流れを決めて習慣化する。
第3学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て、タブレットに気付いたことなどを書かせることによって作品のイメージがつきやすかった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が用具の正しい使い方を例示したが、正しく用具を使えていない児童がいた。 	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵の具を使うことに対しての関心が高く、平面に対しても意欲的に取り組むことができるが、筆使いや丁寧に塗ることに引き続き指導が必要である。 自分なりの思いをもって取り組める児童もいるが、周りの友達と似たような表現になるなど、発想力に課題がある児童もいる。 どの題材においても、意欲的に取り組んでいるが、学習内容を理解し主体的に進められない児童も少なくない。 	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 用具を正しく使用する必然性を伝えきれていない。 題材の提示の仕方やイメージを広げる言葉がけに、より工夫が必要である。 活動の途中の鑑賞の時間を設けることができていない。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 用具の基本的な扱い方や学習の流れなど、板書の工夫や掲示資料を用意するなど視覚的に確認できるようにする。 色や形からイメージする際に、児童一人の考えを共有する時間を設ける。 活動の途中にも鑑賞ができるように、材料や用具の配置を考えて動線を工夫する。
第4学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> スモールステップを意識して指導することにより、表現する力が少しずつ上がってきた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着の差が大きい。個別に対応していく必要がある。 	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が絵の具を用いたり、カッターや段ボールカッターを使ったりしながら、手や体全体を十分に働かせて、表し方を工夫して表現させることができたが、知識・技能の定着が不十分な児童もいる。 表現のさせ方については、見本等を用いて見通しをもたせる工夫を行ったが、自分なりの表現をさせたり、鑑賞から感じ方を広げたりすることは不十分である。 多くの児童は、すすんで表現したり、鑑賞したりする活動に取り組んでいるが、作業に対して苦手意識をもつ児童は若干名いる。 	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着の不十分さがある。 自分らしく表現させたり、感じ方を広げさせたりすることに関する指導に課題がある。 苦手意識をもっている児童への対応に課題がある。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着を図るために、板書の工夫をしたり、学習用タブレット端末を活用したりして個に応じた指導を行う。 自信をもって活動させることを重点的に考え、自己肯定感を高められるような言葉かけを行ったり、互いに認め合ったりする活動を取り入れ、自分らしく表現することへの苦手意識を低くしていく。 作業に対して苦手意識をもたせないように、発達段階に応じてスモールステップで課題に取り組ませていく。
第5学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレットを使用して活動内容を示すことにより、活動内容の見通しが立てやすくなった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵に表す活動については、何をかいていいかイメージがわからない児童が少なからずいた。 	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 用具を活用したり、表し方を活用しようとする姿は見られるが、効果的に活用することはまだ不十分である。 作品ができ上がるまでの見通しがもてず、各工程ごとに確認をしていかなければならない。 どの題材においても、意欲的に取り組もうとする児童が多いが、試行錯誤しながら粘り強く活動できる児童とそうでない児童の差が見られる。 表現したいことはあっても、どう形にしたらいかが戸惑う児童や表したいものが思い浮かばず手が動かない児童など、発想力に課題を感じる児童が見られる。 	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを表すことができるような声かけの工夫や意欲的に取り組めるような発問や題材の工夫が必要である。 自分の表したいことをどのように表すか、見通しをもつための手立てが十分ではない。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の扱い方をICT機器等を活用して提示し、見通しをもって計画を立てられるようにする。 工程ごとに活動内容を提示し、段階的に取り組ませることで、意欲を持続させる。 美術作品や自分たちの作品を通して、表現の意図や特徴などを文章にしたり、友達と話し合ったりさせるなど、他者との交流を重視した活動を取り入れ、表現方法や発想力を深められるようにする。
第6学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 用具の用途を説明することによって、用具の使い分けができるようになった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の交流をする際、感じたことや友達に伝えるときのよさを十分に伝えきれていない。 	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種用具の取り扱いには慣れてきているが、用途に応じて使い分けの点においては、もう少し経験が必要である。 題材のめあてを理解し、自分なりに考えながら取り組むことができる。 与えられた材料や表現方法の中で取り組み、積極的にいろいろな方法に挑戦しようとする様子はあまり見られない。自分のイメージを大切に、自主的に表現方法を選択する力を伸ばしていく必要がある。 鑑賞活動では、友達の作品のよいところや面白さに気付く、積極的に発表しようとする児童が多い。 	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種用具を用途によって使い分けようとする課題を設定できていない。 活動の途中で個々の表現の工夫に対して全体で紹介したり、発表させたりしながらお互いに高め合えるような時間の設定が不十分である。 表現方法を自分で考えたり、材料を選択できるような題材の工夫が必要である。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに扱った材料や用具を自分で選択して活用できるような題材に取り組みせ、達成感をもてるようにする。 これまでの活動を振り返りながら、総合的な表現が取り入れられるよう、しっかりと計画を立てて取り組ませる。 ワークシートに文章でまとめさせるだけでなく、そこから話し合い活動に発展させるなど、言語活動を通して互いの表現のよさや違いを認め合える態度を育てる。